

皆様の声をカタチに

横浜市会議員 齊藤伸一

暑すぎぬ夏、横浜の挑戦

先頃、横浜気象台が発表した資料によると、今年の夏の気温は平年より2度以上も高いとの事。実際、熱中症で搬送される方もこの数年で最も多く、7月だけでも市内で322名が搬送されています。

この暑さの原因は—？皆さんと同様、私も街を歩きながら考えます。「コンクリートで固められた緑の少ない街並」「エアコンの排気熱」等々…。このままではいけないという危機感と共に、市民一

人ひとりがこの思いを共有し、できることから始めなければならぬ、と強く感じました。

市では今年度を「横浜G30プランの集大成」として捉え、排出CO₂の削減率(平成13年度比)を目標として掲出。また「横浜市脱温暖化行動方針(CO₂ D₃₀)」では、目標として平成37年度までに市民一人あたりの温室効果ガス排出量を30%以上削減(平成16年度比)など、皆さんと一緒に環境を守る挑戦を進めています。

「再生可能エネルギー政策」とは？

日本のエネルギー自給率は、石炭や水力などが主流だった昭和30年代の60%前後をピークに石油の輸入量増加に伴い低下。平成19年には18%まで落ち込み、主要先進国ではイタリアに次ぐ低水準です。

「再生可能エネルギー」とは、太陽光や風力、水力などの自然環境から取り出すもので、CO₂等の排出を抑え、地球温暖化防止にも役立ちます。また世界的に見ても、石油中心のエネルギー供給体系の転換には潜在的な資源を生かす再生可能エネルギーの拡大が欠かせません。具体的に、風が強い地域

は風力、水量が豊富な地域は水力(ぼう)しました。今後、委員のメンバーとの討議や先進事例の視察をはじめ、学識経験者などからの意見聴取などを重ねる中で、委員会としての意見・提言を取りまとめていきます。

「再生可能エネルギー」の導入は、CO₂等排出するエネルギーからの転換だけでなく、事業そのものが新たな産業として成長し、雇用創出などにつながる期待があります。さらに大切なのは、こうした取り組みが私たち市民から遠く無関係な話になつてはならないということです。

「再生可能エネルギー」とは、太陽光や風力、水力などの自然環境から取り出すもので、CO₂等の排出を抑え、地球温暖化防止にも役立ちます。また世界的に見ても、石油中心のエネルギー供給体系の転換には潜在的な資源を生かす再生可能エネルギーの拡大が欠かせません。具体的に、風が強い地域

は風力、水量が豊富な地域は水力(ぼう)しました。今後、委員のメンバーとの討議や先進事例の視察をはじめ、学識経験者などからの意見聴取などを重ねる中で、委員会としての意見・提言を取りまとめていきます。



齊藤伸一プロフィール

昭和43年2月4日 横浜市生まれ
 ・産業能率大学 経営情報学部 卒業
 ・日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社勤務、衆議院議員上田いさむ秘書を務める。
 平成19年4月 横浜市会議員2期目当選
 横浜市会 市民、消防

- 常任委員会 委員
- 環境行動都市 特別委員会 委員長
- 公明党 横浜市会議員団 政務調査会 事務局長
- 妻と娘(2歳)の3人暮らし

今や「環境」は議会の重要なキーワード
 こうした状況の中、私は横浜市会・環境行動都市特別委員会の委員長を拝命し、年間テーマとして「再生可能

エネルギー政策」を標榜(ひょうぼう)しました。今後、委員のメンバーとの討議や先進事例の視察をはじめ、学識経験者などからの意見聴取などを重ねる中で、委員会としての意見・提言を取りまとめていきます。

公明党 横浜市会議員団
 保土ヶ谷区 政務調査事務所
 代表 齊藤 伸一
 保土ヶ谷区仏向町196
 TEL045-348-2237 FAX045-334-1777
<http://www.shin-shin.com> <mailto:saito@shin-shin.com>